

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

屋形太鼓の上でうちわを振る「あぶ手」と参道を勇壮に練り歩く「かき手」

子ども太鼓を担いで練り歩く男山中学校の生徒



掛け声を響かせながら手作りのみこしを担ぐ園児＝写真左から南ヶ丘保育園、南ヶ丘第二保育園、やわたこども園＝

勇壮 太鼓まつり

八幡の夏の風物詩「太鼓まつり」が、7月13、14日に行われました。まつりは、石清水八幡宮の摂社・高良神社の例祭の宵祭。約200年前（文政年間）に、町ごとに大きな屋形太鼓がつくれ、太鼓を打ち鳴らしながら練り歩く姿に発展したといわれています。

まつりに先駆け、7月10日には男山中学校で「第38回校内たいこ祭」が開催。5年ぶりに同校区内の南ヶ丘・南ヶ丘第二保育園、やわたこども園の園児、八幡・中央小学校6年生の児童も参加して行われ、園児は手作りのみこしを、小・中学生は、地域の人々の協力で子ども太鼓を担ぎ、運動場を往復して実演し、会場は活気に包まれました。まつり期間に入ると、一区、二区、三区、六区の法被姿の「かき手」（担ぎ手）が、うちわを振って鼓舞する「あぶ手」を乗せた約2トンの屋形太鼓を担いで区内を巡行。太鼓の音と「ヨッサー、ヨッサー」と威勢の良い掛け声を町内に響かせました。

14日の夕方からは、子ども太鼓3基と各区の屋形太鼓4基が同神社に集結し「宮入」を挙行。各区のかき手が屋形太鼓を上下左右に揺さぶりながら、参道を勇壮に練り歩く姿に、詰めかけた観客からは大きな拍手と歓声がわき起こっていました。

体操やゲームで閉じこもり予防

高齢者対象 はつらつ健康教室

福祉会館で7月18日、65歳以上の高齢者を対象に「はつらつ健康教室」が開催。参加者が、さまざまなレクリエーションを通して交流を楽しみました。同教室は、市が高齢者の閉じこもり予防を目的に市内5カ所で通年開催してい

るもので、市内介護保険サービス事業所の職員が講師を務めています。参加者はまず、市の保健師と、災害級の猛暑が続くため室内で過ごす時にはエアコンを積極的に使用するなど、熱中症対策について確認。続いて、ラジオ体操

やストレッチなどで体をほぐしたあと、頭の体操になる間違い探しやしりとりを実践。さらに、災害時に役立つ新聞紙を使ったスリッパや紙皿づくりに挑戦するなど、7種類以上のレクリエーションに楽しんで取り組んでいました。藤本茂さん(81)は、「4年ほど通っている。外に出るきっかけになっていい」と話していました。



新聞紙でスリッパをつくる参加者

参加者募集中 現在、4会場では随時参加申し込み受付中です（介護保険の通所系サービス利用者除く）。参加希望の人は、健康推進課（☎983-1116）へお問い合わせください。

今月のこの人

全国消防救助技術大会 府代表に決定



土岐敦也さん
八幡市消防本部職員（平成30年度入庁）。府内の選抜会で好成績を修め、8月下旬に千葉県で開催の「第52回全国消防救助技術大会」はしご登はん府代表に決定。

「体力的理由などで、大会は今回で引退。今まで4回選抜会に挑戦し、初の全国大会だが、最後に結果が残せるよう頑張りたい」と決意を話す土岐敦也さん。はしご登はんは、命綱を自身に結びつけ、垂直はしご15mを登る正確さや時間を競う種目。一般的な平均所要時間が24秒のところ、土岐さんの

自己平均は13秒台。災害建物の進入時などに不可欠な技術として、消防隊に配属された入庁当初から技を磨いてきました。現在は救急隊に所属し、救急車の出動要請を受けて応急処置や救急搬送にあたる土岐さん。患者の痛みや不安に寄り添った声掛けと早急的確な処置を心がけており、「退院

後の患者さんからお礼の言葉をもらおうとうれしい」と微笑みます。

今後の目標については「輸液など医療器具を使った処置が可能な救急救命士の資格を取得予定。人命救助の知識を増やしてより多くの人を助け、現場で活躍したい」と熱く語りました。

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体を紹介しています。詳しくは、市ホームページまたは秘書広報課へ。